

第26回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会	資料 5 – 1
2021(令和 3)年11月15日	

HPVワクチンのキャッチアップ接種※について

※HPVワクチンの積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方への対応

1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について
2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて
3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について
 - 検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について
 - 検討の軸②キャッチアップ接種の期間について
 - 検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への
周知・勧奨の取扱いについて
4. 論点

1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について

2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて

3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について

検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について

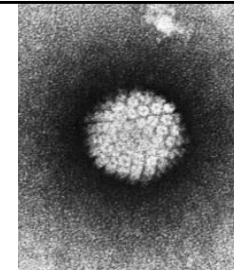
検討の軸②キャッチアップ接種の期間について

検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への
周知・勧奨の取扱いについて

4. 論点

HPVワクチンに関するこれまでの経緯と課題

2021年10月1日副反応検討部会・安全対策調査会資料 1 - 1 より



ヒトパピローマウイルス

【子宮頸がんについて】

- 日本で年間約1.1万人が罹患、約2,800人が死亡。
- 40歳までの女性でがん死亡の第2位。
- ほとんどの子宮頸がんはH P V（ヒトパピローマウイルス）への感染が原因。

【H P Vワクチンについて】

- H P Vワクチンは、H P Vへの感染を防ぐことで、子宮頸がんの罹患を予防。
- H P Vワクチンは、子宮頸がんの原因の50～70%を占める2つのタイプ（HPV16型と18型）のウイルスの感染を防ぐ。
※ 子宮頸がんの予防に当たっては、併せてがん検診を受診することが重要。

【海外の状況】

- 世界保健機関（WHO）が接種を推奨。
- 米、英、独、仏等の先進各国において公的接種として位置づけられている。

平成22年11月26日～
平成25年3月31日

平成22、23年度補正予算により、子宮頸がん等ワクチン接種緊急促進事業（基金）を実施

平成25年4月1日

予防接種法の一部を改正する法律が施行され、H P Vワクチンの定期接種が開始された

⇒ 以降、疼痛又は運動障害を中心とした多様な症状が報告され、マスコミ等で多く報道された

平成25年6月14日

厚生労働省の審議会※で、「ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛の発生頻度等がより明らかになり、国民に適切な情報提供ができるまでの間、定期接種を積極的に勧奨すべきではない」とされ、**積極的勧奨差し控え**（厚生労働省健康局長通知）

※ 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会と薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会の合同開催

⇒ 以降、

- ① HPVワクチンのリスク（安全性）とベネフィット（有効性）を整理
- ② HPVワクチン接種後に生じた症状に苦しんでいる方に寄り添った支援をどう進めていくのか
- ③ HPVワクチンの安全性・有効性等に関する情報提供をどう進めていくのか

審議会において検討

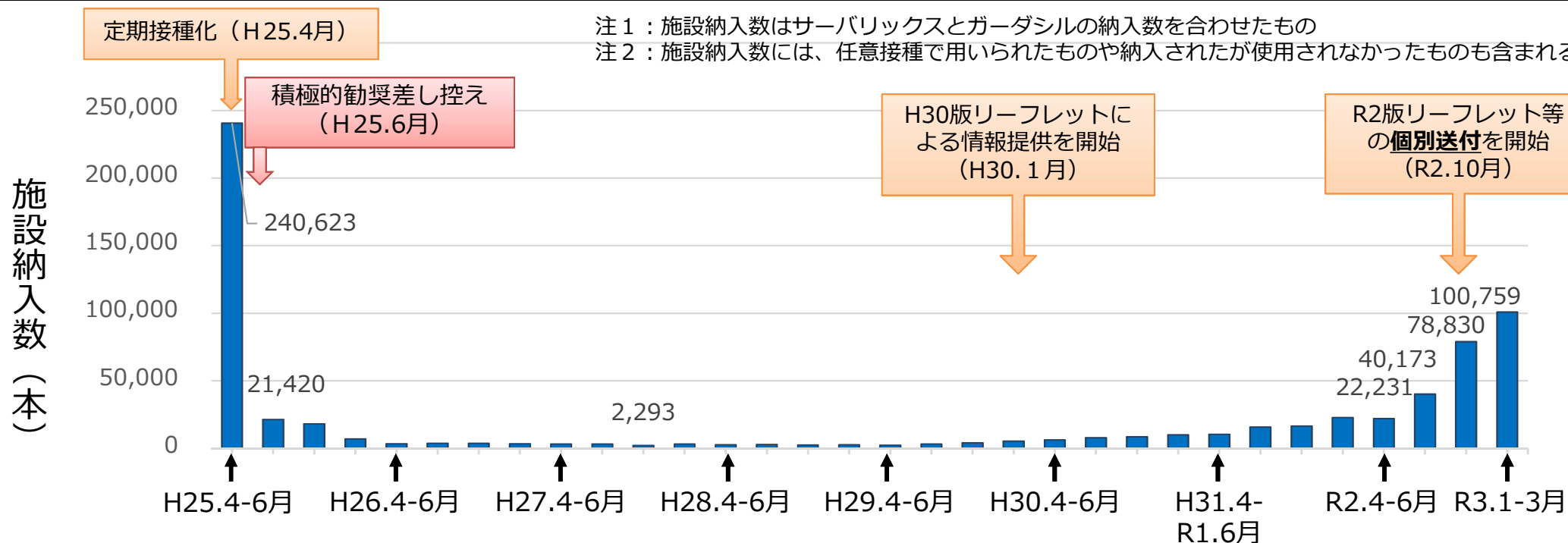
(参考) ワクチン接種緊急促進事業と定期接種におけるHPVワクチンの接種対象者等

時期		接種対象者
ワクチン接種 緊急促進事業	平成22年11月26日～ 平成25年3月31日	13歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女性 ※ ただし、例外として、12歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間にある女性も対象とすることができる
定期接種	平成25年4月1日～	12歳となる日の属する年度の初日から16歳となる日の属する年度の末日までの間にある女子 ※ 13歳となる日の属する年度の初日から当該年度の末日までの間を標準的な接種期間とする

HPVワクチンの接種状況の推移

第69回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会、令和3年度第18回薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会（2021年10月1日）資料1-1より抜粋

- HPVワクチンは、積極的勧奨の差し控え以降、接種数が低い状態が続いていたが、過去2～3年の間に徐々に接種数が増加してきている。



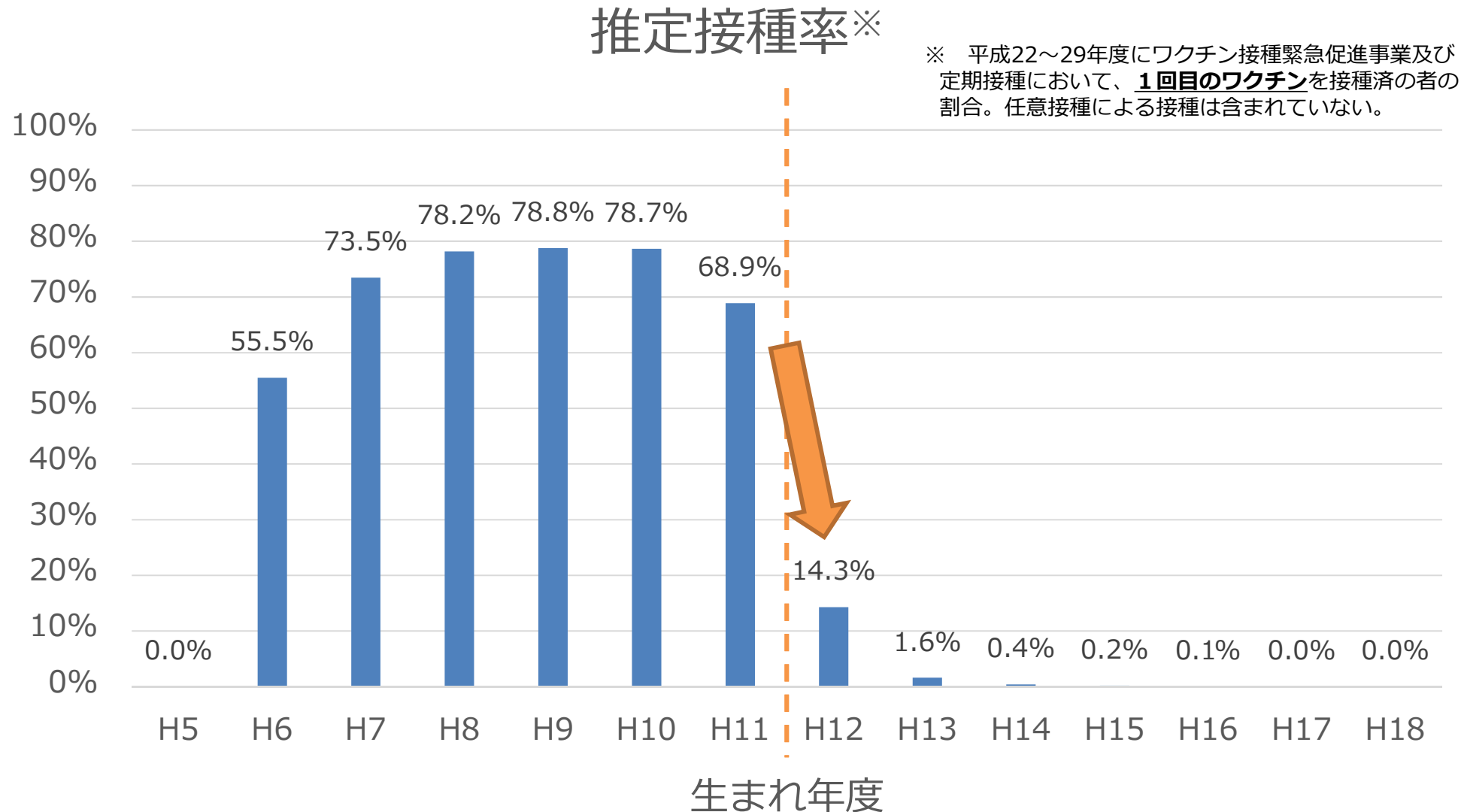
（参考）HPVワクチンの接種率の推移（年度別）

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
1回目	接種者数	98,656	3,895	2,711	1,834	3,347	6,810	17,297
	接種率（%）	17.2%	0.7%	0.5%	0.3%	0.6%	1.3%	3.3%
2回目	接種者数	66,568	4,172	2,669	1,805	2,666	5,746	13,571
	接種率（%）	11.6%	0.7%	0.5%	0.3%	0.5%	1.1%	2.6%
3回目	接種者数	87,233	6,238	2,805	1,782	1,847	4,184	9,701
	接種率（%）	15.2%	1.1%	0.5%	0.3%	0.3%	0.8%	1.9%

※接種率は接種者数（地域保健・健康増進事業報告の「定期の予防接種被接種者数」より計上）を対象人口（標準的な接種年齢期間の総人口を総務省統計局推計人口（各年10月1日現在）から求め、これを12ヶ月相当人口に推計したもの）で除して算出。

1回目のHPVワクチンを接種済の者の割合（2017年度接種分までの推計データ）

- ワクチン接種緊急促進事業の対象であったH11年度以前の生まれの世代では接種率が7割程度である一方、定期接種の積極的な勧奨が差し控えられたH25年度以降に標準的な接種期間（13歳の学年）であったH12年度生まれ以降の世代では接種率が低くなっている。



1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について

2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて

3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について

検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について

検討の軸②キャッチアップ接種の期間について

検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への
周知・勧奨の取扱いについて

4. 論点

HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性についての報告①

※論文の詳細については、資料5－2参照

【17歳以上の女性へのワクチンの有効性に関する文献①（前がん病変）】

（26歳までの女性におけるCIN2+, CIN3+に対する4価HPVワクチンの有効性（米国））

- 初回接種が14-17歳で高い有効性（調整後RR; CIN2+で0.52, CIN3+で0.27）、初回接種が18-20歳でも有効性を認めた（調整後RR; CIN2+で0.65, CIN3+で0.59）一方、21歳以上で初回接種した群では有意な効果は見られなかった。

出典: Michael J. Silverberg et al. Lancet Child Adolesc Health. 2018; 2(10): 707-714.

（日本のHPVワクチン接種事業開始以降の高度子宮頸部病変におけるHPV 16/18型の陽性率）

- 20歳以下での初回接種群ではCIN2-3/AIS陽性例におけるHPV16/18型の陽性率が有意に低下していた（ $p=0.02$ ）一方で、21歳以上での初回接種群では、有意差は認めなかった（ $p=0.18$ ）。

出典: Koji Matsumoto et al. Cancer Science. 2019;110:3811-3820.

※CIN: 子宮頸部異形成 軽度（CIN1）、中等度（CIN2）、高度（CIN3）に分類 AIS: 上皮内腺癌

注) これらの研究は、研究対象者やワクチン接種のプロトコール、アウトカムの評価方法などの研究デザインが異なるため、異なる研究間で数値を単純比較することはできないことに留意する必要がある。

HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性についての報告②

※論文の詳細については、資料5-2 参照

【17歳以上の女性へのワクチンの有効性に関する文献②（子宮頸がん）】

（子宮頸がんに対するHPVワクチンの効果についてのコホート研究（デンマーク））

- 19歳以下のHPVワクチン接種では子宮頸がんの予防に対する高い効果が認められたが、16歳以下での接種でより高い有効性（罹患率比；16歳以下で0.14、17-19歳で0.32）が認められ、若年での接種の重要性が示された。

出典：Susanne K. Kjaer et al. Journal of the National Cancer Institute 2021.

（10歳から30歳までの女性のHPVワクチン接種と浸潤性子宮頸がん発症のリスクについての検討（スウェーデン））

- 16歳以下で接種した群において、非接種群と比較した接種群の罹患率比（多因子調整後）は0.12、19歳以下で接種した群では0.36であった。

出典：Jiayao Lei, Alexander Ploner, et al. N Engl J Med 2020, 383; 14: 1340-1348.

（子宮頸がんとCIN3に対する2価HPVワクチンの有効性（英国））

- 接種時の年齢毎の子宮頸がん発生率の減少率は、16-18歳接種群で34%、14-16歳接種群で62%、12-13歳接種群で87%であった。CIN3発生率の減少率は、16-18歳接種群で39%、14-16歳接種群で75%、12-13歳接種群で97%であった。

出典：Milena Falcato, et al. Lancet November 3, 2021 [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(21\)02178-4](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(21)02178-4).

⇒ HPV関連の子宮病変に対するワクチンの有効性は、概ね16歳以下の接種で最も有効性が高いが、20歳頃の初回接種までは一定程度の有効性が保たれることが示されている。

※CIN：子宮頸部異形成 軽度（CIN1）、中等度（CIN2）、高度（CIN3）に分類 AIS：上皮内腺癌

注）これらの研究は、研究対象者やワクチン接種のプロトコール、アウトカムの評価方法などの研究デザインが異なるため、異なる研究間で数値を単純比較することはできないことに留意する必要がある。

HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性についての報告③

※論文の詳細については、資料5－2参照

【性交経験とワクチンの有効性に関する文献】

(15歳から25歳の女性におけるCIN3+に対する2価HPVワクチンの有効性と安全性 (欧州、アジア太平洋、ラテンアメリカ、北米の14カ国))

- CIN3+に対して、若年でのワクチン接種の重要性 (ワクチン有効性：接種時の年齢が15-17歳で80.5%だが、18-20歳で56.3%と低下、21-25歳では有効性なし) が示された一方、25歳以下のHPV未感染者 (性交未経験者を包含) では年齢にかかわらずCIN3+に対して高い有効性 (ワクチン有効性：100%) が示された。重篤な有害事象の発生頻度について、ワクチン接種群とコントロール群で差は認めなかった。

出典：Matti Letinen et al. Lancet Oncol 2012;13:89-99.

(14歳から17歳の女性におけるHPV感染に対する4価HPVワクチンの有効性 (コロンビア))

- HPV 16/18型への感染について、性交経験前の接種では経験後の接種よりも高い有効性 (経験前：91.5%、経験後：36.2%) が示された。

出典：Alba L Combita et al. Cancer Prev Res (Phila). 2021 Oct 5;canprevres.0063.2021.

【26歳以上の女性へのワクチン接種の有効性に関する文献】

(26歳以上の女性におけるCIN1+に対する2価HPVワクチンの有効性 (アジア太平洋、欧州、北米、ラテンアメリカの12カ国))

- (HPV未感染者を多く含む (※) 対象者においては) 接種から84ヶ月の時点で、26歳以上のワクチン接種者における、HPV 16/18型の持続感染 (6ヶ月間) 又はCIN1+病変に対するワクチン有効性は90.5%であった。

出典：Cosette M Wheeler et al Lancet Infect Dis 2016; 16: 1154-68.

(※) 本臨床試験では、HPV既感染者の割合が15%と、通常よりも既感染率が低い集団を対象にしている点に留意を要する。

⇒ **HPVワクチンは、定期接種の対象年齢以上の世代に接種した場合であっても一定程度の予防効果が期待できるが、性交経験によるHPV感染によってワクチンの予防効果が減少することが示されている。**

※CIN：子宮頸部異形成 軽度 (CIN1)、中等度 (CIN2)、高度 (CIN3) に分類 AIS：上皮内腺癌

注) これらの研究は、研究対象者やワクチン接種のプロトコール、アウトカムの評価方法などの研究デザインが異なるため、異なる研究間で数値を単純比較することはできないことに留意する必要がある。

HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する安全性についての報告

※論文の詳細については、資料5－2参照

(26歳以上の女性における2価HPVワクチンの安全性(アジア太平洋、欧州、北米、ラテンアメリカの12カ国))

- 26歳以上の女性への接種の安全性について、非接種群と比較して、重篤な副反応、新規に発生した慢性疾患や自己免疫疾患の発症割合に差は認められなかった。 出典:S Rachel Skinner et al. Lancet 2014;384:2213-27.

(18歳から26歳の女性における4価HPVワクチンの有効性と安全性(日本))

- 18歳から26歳までの日本人女性におけるHPVワクチン接種について、ワクチン型HPVの感染とCIN1, CIN2についての有効性が示され、安全性についても高い忍容性(※)が示された。

(※) 医薬品の副作用等が許容できる程度

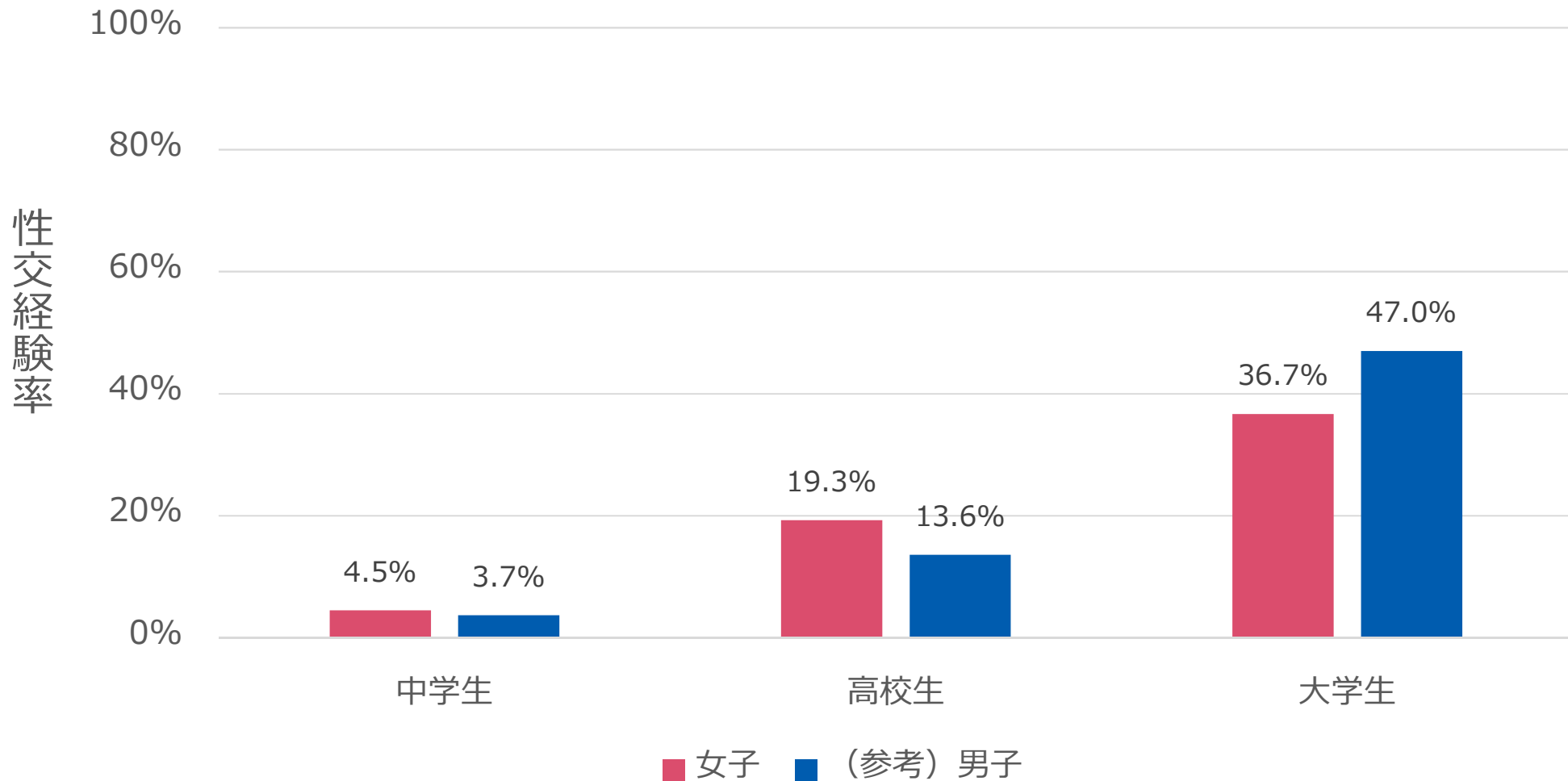
出典:Yoshikawa et al. Cancer Science 2013; 104(4): 465-472.

⇒ HPVワクチンは、定期接種の対象年齢以上の世代への接種においても、明らかな安全性の懸念は示されていない。

注) これらの研究は、対象者やワクチン接種のプロトコル、アウトカムの評価方法などの研究デザインが異なるため、異なる研究間で数値を単純比較することはできないことに留意する必要がある。

学校段階ごとの性交経験率

- 学校段階が進むにつれて女子の性交経験率は上昇する傾向にあり、高校生女性で約2割、大学生女子では4割弱が性交を経験している。



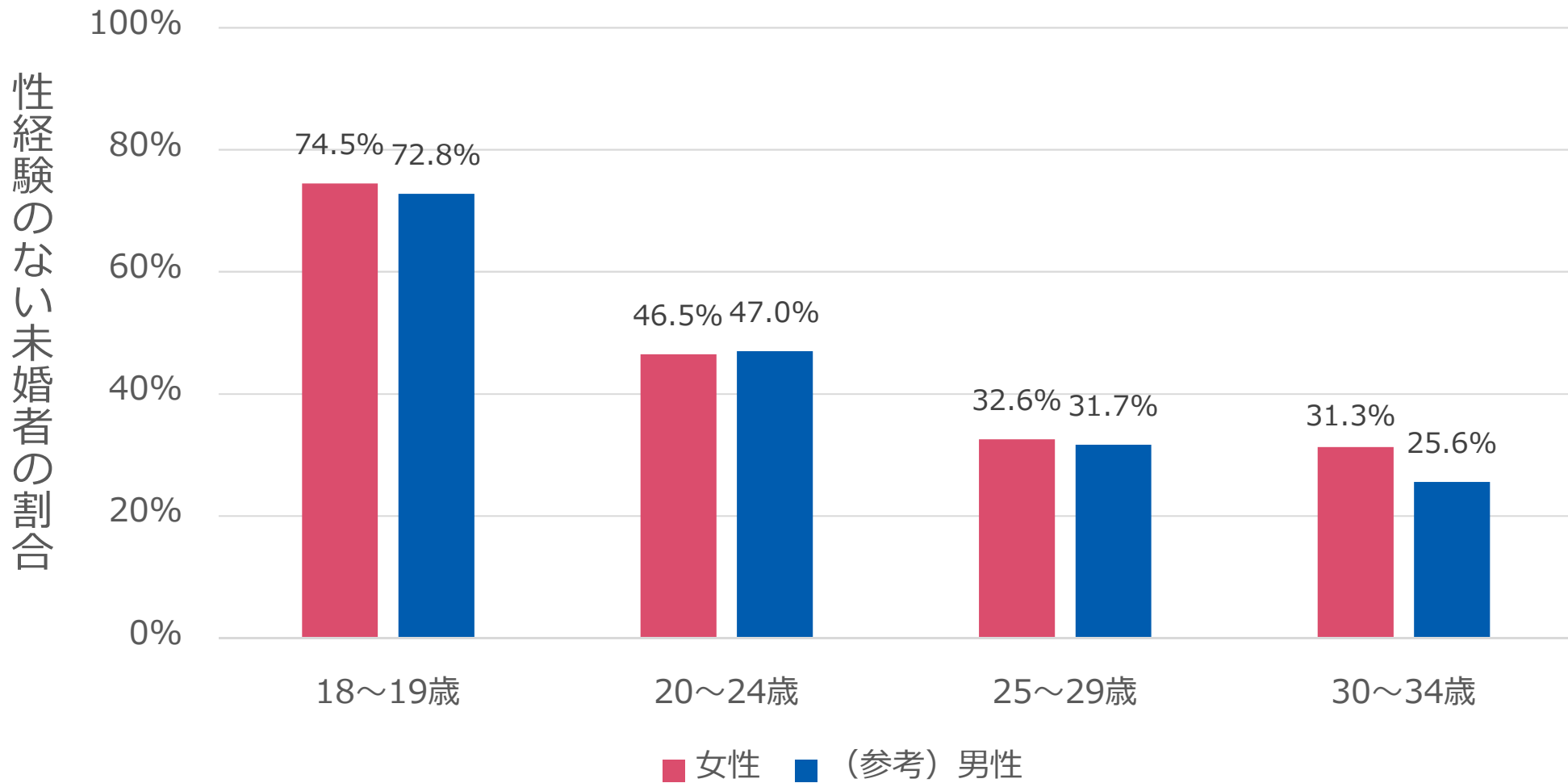
「若者の性」白書 第8回青少年の性行動全国調査報告（日本性教育協会編）P27を参考に厚生労働省予防接種室で作成

調査年：2017年、調査対象者数：中学生 4,449名、高校生 4,282名、大学生 4,194名

質問項目：「あなたは、いままでに、セックス（性交）の経験がありますか。」 ※中学生調査では、「セックス（性交）」を「性的接触」に変更

年齢別 性経験のない未婚者の割合

○ 性経験のない未婚者の割合は、18～19歳と比較すると20歳以上で大きく減少する。



第15回出生動向基本調査 国立社会保障・人口問題研究所 を参考に厚生労働省予防接種室で作成
調査年：2015年、調査対象者数：対象は18～34歳の未婚者。女性 2,570名、男性 2,706名
設問：「あなたはこれまでに異性と性交渉をもったことがありますか。」（1. ある、2. ない）

1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について
2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて
- 3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について**
 - 検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について
 - 検討の軸②キャッチアップ接種の期間について
 - 検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への
周知・勧奨の取扱いについて
4. 論点

HPVワクチンのキャッチアップ接種の基本的な考え方

- 予防接種法においては、疾病の発生及びまん延の予防という観点から、接種した場合のリスクとベネフィットを比較考量した上で、**投与することでベネフィットがリスクを最も上回ると期待できる者を定期接種の対象者**として定めており、HPVワクチンについては、12歳から16歳になる年度中の女子とされている。
- 一方で、キャッチアップ接種については、HPVワクチンの積極的な勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方に対して**公平な接種機会を確保する観点**から、時限的に、従来の定期接種の対象年齢を超えて接種を行うこととなる。

HPVワクチンのキャッチアップ接種の検討における3つの検討の軸について

HPVワクチンのキャッチアップ接種の検討においては、次の3つの検討の軸に沿って考える必要がある。

軸①

キャッチアップ接種の対象者について

軸②

キャッチアップ接種の期間について

軸③

キャッチアップ接種の対象者への周知・勧奨の取扱いについて

1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について
2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて
- 3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について**
 - 検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について**
 - 検討の軸②キャッチアップ接種の期間について
 - 検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への
周知・勧奨の取扱いについて
4. 論点

HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する整理

	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生	H20生	H21生
推定接種率※	78.8%	78.7%	68.9%	14.3%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%			
H22	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
H23	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳
H24	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
H25	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳
H26	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳
H27	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳
H28	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳
H29	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳
H30	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳
R1	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳
R2	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
R3	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳

○歳 緊急促進事業の接種対象者。
12歳は例外として対象とされた場合

○歳 定期接種の接種対象者。
13歳は標準的接種期間にある者

※ 年齢については、**各年度生まれの者が当該年度内に達する年齢を記載**（例:13歳→中1）

緊急促進事業

積極的勧奨差し控え

定期接種

※ Nakagawa S et al. Cancer Sci. 2020 Jun;111(6):2156-2162. 2017年度接種分までのデータをもとに一定の仮定に基づき推計された1回目のワクチンを接種済の者の割合。

注1：ワクチン接種緊急促進事業におけるHPVワクチンの接種対象者は13～16歳となる年度の女性であり、例外として12歳となる年度の女性も対象とすることができた。

注2：定期接種におけるHPVワクチンの接種対象者は12～16歳となる年度の女子であり、標準的な接種期間はこのうち13歳となる年度。

HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者についての考え方

- HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者の範囲については、
 - ・ **接種機会の公平性**
⇒ ワクチンを接種する機会が一定程度確保されていたか
 - ・ **接種による安全性と有効性とのバランス**
⇒ 接種年齢が高くなるほどワクチンの有効性が低くなることについてどう考えるかなどの観点を踏まえて検討することが必要。

	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生	H20生	H21生
推定接種率※	78.8%	78.7%	68.9%	14.3%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%			
H22	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
H23	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳
H24	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
H25	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳
H26	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳
H27	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳
H28	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳
H29	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳
H30	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳
R1	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳
R2	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
R3	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳

緊急促進事業

積極的勧奨差し控え

定期接種

○歳 緊急促進事業の接種対象者。
12歳は例外として対象とされた場合

○歳 定期接種の接種対象者。
13歳は標準的接種期間にある者

※ 年齢については、各年度生まれの者が当該年度内に達する年齢を記載（例:13歳→中1）

HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者の案①

H9年度生～H17年度生（9 学年）を対象とする場合

考え方 H25年度以降に定期接種の対象であり、R4年度に定期接種の対象外である世代全てを対象とする

対象者 H25年度の16歳（H9年度生、R4年度：25歳）からR4年度の17歳（H17年度生）まで（9 学年）

キャッチアップの対象者の案①

	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生	H20生	H21生
推定 接種率※	78.8%	78.7%	68.9%	14.3%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%			
H22	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
H23	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳
H24	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
H25	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳
H26	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳
H27	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳
H28	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳
H29	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳
H30	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳
R1	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳
R2	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
R3	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳

○歳 緊急促進事業の接種対象者。
12歳は例外として対象とされた場合

○歳 定期接種の接種対象者。
13歳は標準的接種期間にある者

※年齢については、各年度生まれの者が当該年度内に達する年齢を記載（例：13歳→中1）

※キャッチアップ接種の期間を2年以上とする場合、キャッチアップ接種の期間中に定期接種の対象から新たに外れた世代についても順次キャッチアップ接種の対象者とするか検討が必要。

HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者の案②

H12年度生～H17年度生（6学年）を対象とする場合

*予防接種を受けるのに最も適切な期間
(HPVワクチンでは13歳の学年)

考え方 H25年度以降に定期接種の対象であるとともに「標準的な接種期間*」の対象年齢に該当した世代
(H12年度以降生)のうち、R4年度に定期接種の対象外である世代を対象とする

対象者 H25年度の13歳（H12年度生、R4年度：22歳）からR4年度の17歳（H17年度生）まで（6学年）

キャッチアップの対象者の案②

	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生	H20生	H21生
推定 接種率※	78.8%	78.7%	68.9%	14.3%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%			
H22	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
H23	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳
H24	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
H25	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳
H26	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳
H27	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳
H28	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳
H29	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳
H30	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳
R1	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳
R2	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
R3	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳

○歳 緊急促進事業の接種対象者。
12歳は例外として対象とされた場合

○歳 定期接種の接種対象者。
13歳は標準的接種期間にある者

※年齢については、各年度生まれの者が当該年度内に達する年齢を記載（例：13歳→中1）

※キャッチアップ接種の期間を2年以上とする場合、キャッチアップ接種の期間中に定期接種の対象から新たに外れた世代についても順次キャッチアップ接種の対象者とするか検討が必要。

HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者の案③

H14年度生～H17年度生（4学年）を対象とする場合

考え方 R4年度に定期接種の対象外である世代のうち、医学的にワクチンの有効性が相対的に高い世代（20歳以下）のみを対象とする

対象者 R4年度の20歳（H14年度生）からR4年度の17歳（H17年度生）まで（4学年）

キャッチアップの対象者の案③

	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生	H20生	H21生
推定接種率※	78.8%	78.7%	68.9%	14.3%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%			
H22	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
H23	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳
H24	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
H25	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳
H26	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳
H27	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳
H28	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳
H29	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳
H30	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳
R1	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳
R2	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
R3	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳

○歳 緊急促進事業の接種対象者。
12歳は例外として対象とされた場合

○歳 定期接種の接種対象者。
13歳は標準的接種期間にある者

※年齢については、各年度生まれの者が当該年度内に達する年齢を記載（例：13歳→中1）

※キャッチアップ接種の期間を2年以上とする場合、キャッチアップ接種の期間中に定期接種の対象から新たに外れた世代についても順次キャッチアップ接種の対象者とするか検討が必要。

軸①

キャッチアップ接種の対象者について

<考え方>

- HPVワクチンのキャッチアップ接種の対象者の範囲については、
 - ・ 接種機会の公平性 ⇒ ワクチンを接種する機会が一定程度確保されていたか
 - ・ 接種による安全性と有効性とのバランス ⇒ 接種年齢が高くなるほどワクチンの有効性が低くなることについてどう考えるかなどの観点を踏まえて検討することが必要。

<対象者の案>

① H9生～H17生（**9学年**）を対象とする場合

考え方：H25年度以降に定期接種の対象であり、R4年度に定期接種の対象外である世代全てを対象者とする
対象者：H25年度の16歳（H9年度生、R4年度：25歳）からR4年度の17歳（H17年度生）まで（9学年）

② H12生～H17生（**6学年**）を対象とする場合

*予防接種を受けるのに最も適切な期間（HPVワクチンでは13歳の学年）

考え方：H25年度以降に定期接種の対象であるとともに「標準的な接種期間*」の対象年齢に該当した世代（H12年度以降生）のうち、R4年度に定期接種の対象外である世代を対象者とする

対象者：H25年度の13歳（H12年度生、R4年度：22歳）からR4年度の17歳（H17年度生）まで（6学年）

③ H14生～H17生（**4学年**）を対象とする場合

考え方：R4年度に定期接種の対象外である世代のうち、医学的にワクチンの有効性が相対的に高い世代（20歳以下）のみを対象者とする

対象者：R4年度の20歳（H14年度生）からR4年度の17歳（H17年度生）まで（4学年）

論点

- 接種機会の公平性や接種による安全性と有効性とのバランスなどの観点を踏まえ、キャッチアップ接種の対象者（対象となる者の生まれた年度）についてどのように考えるか。

1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について
2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて
- 3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について**
 - 検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について
 - 検討の軸②キャッチアップ接種の期間について**
 - 検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への周知・勧奨の取扱いについて
4. 論点

HPVワクチンのキャッチアップ接種の期間についての考え方

- 接種機会を確保する観点から、一定期間、キャッチアップ接種を実施することが重要。
- キャッチアップ接種の期間を**過度に短く設定した場合**、短期間に接種が集中することにより、医療機関・自治体の業務や、接種を希望してから実際に接種できるまでの待ち時間等に影響を与える可能性がある。
- 一方で、キャッチアップ接種の期間を**過度に長く設定した場合**、早期に接種を行う必要がないという誤ったメッセージにつながる可能性がある。この場合、特に年齢が高い世代においては、接種のタイミングが遅れることによりワクチンの有効性がより低くなる可能性がある。
- 上記の点を踏まえ、キャッチアップ接種をR4年度から開始すると仮定した場合、何年間キャッチアップ接種を実施するかについて検討が必要

	H9生	H10生	H11生	H12生	H13生	H14生	H15生	H16生	H17生	H18生	H19生	H20生	H21生
推定接種率※	78.8%	78.7%	68.9%	14.3%	1.6%	0.4%	0.2%	0.1%	0.0%	0.0%			
H22	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳	1歳
H23	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳	2歳
H24	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳	3歳
H25	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳	4歳
H26	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳	5歳
H27	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳	6歳
H28	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳	7歳
H29	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳	8歳
H30	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳	9歳
R1	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳	10歳
R2	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳	11歳
R3	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳	12歳
R4	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳	13歳
R5	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳	14歳
R6	27歳	26歳	25歳	24歳	23歳	22歳	21歳	20歳	19歳	18歳	17歳	16歳	15歳

緊急促進事業

積極的勧奨差し控え

定期接種

キャッチアップ接種

○ 緊急促進事業の接種対象者。
12歳は例外として対象とされた場合

○ 定期接種の接種対象者。
13歳は標準的接種期間にある者

※ 年齢については、各年度生まれの者が当該年度内に達する年齢を記載（例：13歳→中1）

軸②

キャッチアップ接種の期間について

<考え方>

- 接種機会を確保する観点から、一定期間、キャッチアップ接種を実施することが重要。
- また、キャッチアップ接種の期間を過度に短く設定した場合、短期間に接種が集中することにより、医療機関・自治体の業務や、接種を希望してから実際に接種できるまでの待ち時間等に影響を与える可能性がある。
- 一方で、キャッチアップ接種の期間を過度に長く設定した場合、早期に接種を行う必要がないという誤ったメッセージにつながる可能性がある。この場合、特に年齢が高い世代においては、接種のタイミングが遅れることによりワクチンの有効性がより低くなる可能性がある。

論点

- キャッチアップ接種の期間について、過度に短く設定した場合と過度に長く設定した場合それぞれにデメリットがあることを踏まえ、キャッチアップ接種の期間についてどのように考えるか。

1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について
2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて
- 3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について**
 - 検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について
 - 検討の軸②キャッチアップ接種の期間について
 - 検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への
周知・勧奨の取扱いについて**
4. 論点

キャッチアップ接種の対象者への周知・勧奨の取扱いについての考え方

- キャッチアップ接種の対象者に対する主な周知・勧奨の方法については、ＨＰや広報誌等を用いた周知、接種対象者等へのリーフレット等の個別送付による情報提供、個別送付の際に接種をお勧めする旨のメッセージを添えたり予診票を同封する等の個別の働きかけなどがある。
- 接種年齢が高くなるほどワクチンの有効性が低くなること等を踏まえ、キャッチアップ接種の対象者の全部又は一部に対して、予診票等を同封する等の個別の働きかけを実施するかどうかについて検討が必要。
- また、**仮に**キャッチアップ接種の対象者の全部又は一部に対して予診票等を同封する等の個別の働きかけを実施する場合、医療機関・自治体の業務や、接種を希望してから実際に接種できるまでの待ち時間等への影響を踏まえ、どのようなかたちで個別の働きかけを実施するか等について検討が必要。

軸③

キャッチアップ接種の対象者への周知・勧奨の取扱いについて

<考え方>

- キャッチアップ接種の対象者に対する主な周知・勧奨の方法については、HPや広報誌等を用いた周知、接種対象者等へのリーフレット等の個別送付による情報提供、個別送付の際に接種をお勧めする旨のメッセージを添えたり予診票を同封する等の個別の働きかけなどがある。
- 接種年齢が高くなるほどワクチンの有効性が低くなること等を踏まえ、キャッチアップ接種の対象者の全部又は一部に対して、予診票等を同封する等の個別の働きかけを実施するかどうかについて検討が必要。
- また、**仮に**キャッチアップ接種の対象者の全部又は一部に対して予診票等を同封する等の個別の働きかけを実施する場合、医療機関・自治体の業務や、接種を希望してから実際に接種できるまでの待ち時間等への影響を踏まえ、どのようなかたちで個別の働きかけを実施するか等について検討が必要。

論点

- 接種年齢が高くなるほどワクチンの有効性が低くなること等を踏まえ、キャッチアップ接種の対象者に接種機会を提供するだけでなく、その全部又は一部に対して、予診票等を同封する等の個別の働きかけを実施するかどうかについてどう考えるか。

1. HPVワクチンのこれまでの接種状況について
2. HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する有効性・安全性のエビデンスについて
3. HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について
 - 検討の軸①キャッチアップ接種の対象者について
 - 検討の軸②キャッチアップ接種の期間について
 - 検討の軸③キャッチアップ接種の対象者への周知・勧奨の取扱いについて

4. 論点

HPVワクチンのキャッチアップ接種についての課題と論点

(HPVワクチンのこれまでの接種状況について)

- H12年度以降の生まれの世代では、それ以前の生まれの世代と比較してHPVワクチンの接種率が低くなっている。

(HPVワクチンのキャッチアップ接種に関する安全性・有効性のエビデンスについて)

- HPV関連の子宮病変に対するワクチンの有効性は、概ね16歳以下の接種で最も有効性が高いが、20歳頃の初回接種までは一定程度の有効性が保たれることが示されている。
- HPVワクチンは、定期接種の対象年齢以上の世代に接種した場合であっても一定程度の予防効果が期待できるが、性交経験によるHPV感染によってワクチンの予防効果が減少することが示されている。
- HPVワクチンは、定期接種の対象年齢以上の世代への接種においても、明らかな安全性の懸念は示されていない。

(HPVワクチンのキャッチアップ接種の考え方について)

- HPVワクチンのキャッチアップ接種の検討においては、次の3つの検討の軸に沿って考える必要がある。

軸① キャッチアップ接種の対象者について

軸② キャッチアップ接種の期間について

軸③ キャッチアップ接種の対象者への周知・勧奨の取扱いについて

論点

- 接種機会の公平性や接種による安全性と有効性とのバランスなどの観点を踏まえ、キャッチアップ接種の対象者（対象となる者の生まれた年度）についてどのように考えるか。
- キャッチアップ接種の期間について、過度に短く設定した場合と過度に長く設定した場合それぞれにデメリットがあることを踏まえ、キャッチアップ接種の期間についてどのように考えるか。
- 接種年齢が高くなるほどワクチンの有効性が低くなること等を踏まえ、キャッチアップ接種の対象者に接種機会を提供するだけでなく、その全部又は一部に対して、予診票等を同封する等の個別の働きかけを実施するかどうかについてどう考えるか。